

「広島県道路整備計画 2026（仮称）」の骨子案について

1 要旨

「広島県道路整備計画 2021」の計画期間が令和8年12月末で終期を迎えることから、上位計画である「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」、及び「社会資本未来プラン」の改定内容と整合を図った上で、これまでの成果や課題、社会経済情勢の変化等を踏まえて、「広島県道路整備計画 2026（仮称）」を策定する。

2 現行計画の取組成果

- 投資額については、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」など有利な財源を最大限活用し、予定額2,150億円を上回る2,643億円を確保し、道路整備を推進した。
- 事業実施状況については、計画263箇所（道路法面災害防除を除く）のうち、約80%の箇所が計画どおり進捗している。道路法面災害防除は、現地調査の結果、施工範囲の拡大により、施工期間が長期化しているが、完成予定としていた260箇所のうち127箇所が完成した。
- 成果指標については、11指標のうち3指標が目標を達成し、他3指標が約8割の達成度となった。国道2号東広島・安芸バイパス、東広島高田道路、鞆松永線（鞆未来トンネル）が完成し、広島空港へのアクセス強化、災害に強い道路ネットワークの充実、沿線住民の生活利便性向上や安全・安心の確保、周遊観光の促進が図られた。

投資額（R3年度～R7年度）

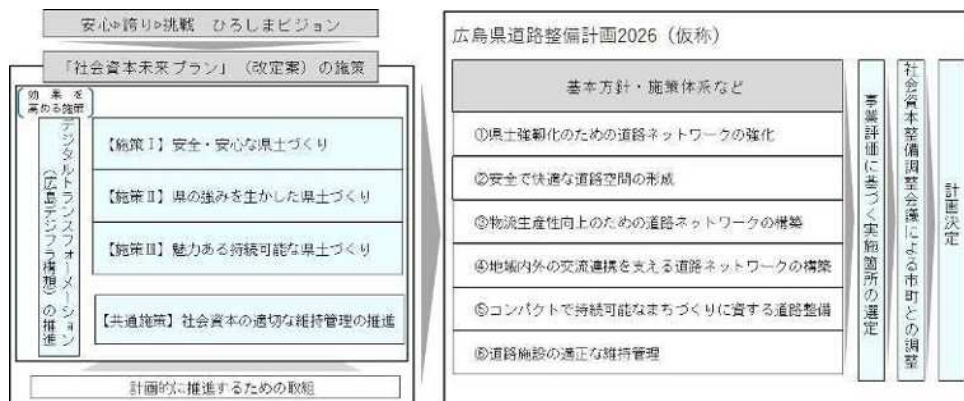


3 骨子案の概要【別紙参照】

(1) 計画期間 令和8年度～令和12年度（5年間）

(2) 策定にあたっての考え方

- 「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」や「社会資本未来プラン」が目指す姿の実現に向け、下表のとおり現行計画で重点的に取り組む6つの施策を踏襲しつつ、現行計画の取組状況や産業クラスター形成・脱炭素化等の社会経済情勢の変化を踏まえた新たな取組を追加する。また、各施策においてデジタル技術の活用も推進する。
- 県事業の実施箇所については、施策の貢献度や事業の実施環境などを考慮するとともに、市町の意見を伺いながら選定する。



4 スケジュール

8月	9月	10月	11月	12月
骨子案公表	社会資本整備調整会議（市町調整を含む）		計画素案公表	成案
○ ←			○	○

「広島県道路整備計画2026(仮称)」骨子案

別紙

広島県道路整備計画2021の概要と取組成果

- (1) 計画期間 令和3年度～令和7年度(5年間)
(2) 取組成果 現行計画の成果目標11指標のうち3指標が目標を達成し、他3指標が約8割の達成度となった。未達成の主な理由は、用地交渉等の難航、現場条件等を踏まえた施工計画の変更等による工程計画の変更などにより、完成箇所が計画を下回ったことによるものであるが、いずれの指標も、着実に改善や向上を図ることができた。

施策体系	目標指標	現状値 (R2)	目標値 (R7)	実績値 (R7末)	結果 (達成度)	主な完成箇所 (R7末)	整備効果等
①県土強靱化のための道路ネットワークの強化	緊急輸送道路の災害時通行止箇所	190箇所 (H27～R1)	160箇所 (R3～R7)	46箇所 (R3～R7)	達成 (480.0%)	東広島高田道路[向原吉田道路] 橋梁耐震補強完了数:16箇所 法面防災対策完了数:127箇所	■R3年7月・8月豪雨やR4年台風第14号等により公共土木施設災害が多く発生したが、緊急輸送道路の通行止めは少なく、社会経済活動への影響を抑制
	緊急輸送道路における防災対策実施済延長(率)	454.5km(28%)	799.2km(49%)	758.3km(47%)	未達成 (88.1%)		
②安全で快適な道路空間の形成	通学路安全対策プログラムに基づく危険箇所の歩道設置箇所数	42箇所	73箇所	55箇所	未達成 (41.9%)	(主)東海田広島線[畛工区] (主)大崎上島循環線[大田工区] (主)甲山甲奴上市線[福田工区]	■令和3年通学路緊急合同点検における県管理道路上の危険箇所(235箇所)の緊急対策(暫定的な安全措置を含む)により、子供の安全な通行を確保
③物流生産性向上のための道路ネットワークの構築	年間渋滞損失時間	4,500万時間	3,500万時間	4,180万時間	未達成 (32.0%)		■県内の主要渋滞箇所の減少 [R2:89箇所→R7:78箇所] ■東広島・安芸バイパスの全線開通により、山陽道とのダブルネットワークが形成され山陽道の渋滞が8割軽減
	主要渋滞箇所における対策箇所数	15箇所	7箇所	12箇所	未達成 (37.5%)	東広島・呉自動車道[阿賀IC立体交差] 一般国道2号[東広島・安芸バイパス] 一般国道317号[青影バイパス]	
	広島空港に60分で到達可能な圏域の人口	149万人	162万人	155万人	未達成 (46.2%)		
④地域内外の交流連携を支える道路ネットワークの構築	高速道路ICから30分で到達可能な主要観光地等の割合 (主要観光地数538箇所)	81%	83%	83%	達成 (100%)	一般国道186号[御園バイパス] 一般国道375号[日下～引宇根工区] (主)新松永線[轄工区]	■県内観光に自家用車を利用する観光客数は同水準であるが、移動時間の短縮による滞在時間の増加等により、観光消費額が増加[R1:4,410億円→R7:6,310億円]
⑤コンパクトで持続可能なまちづくりに資する道路整備	現況1車線バス路線区間延長 (交通量500台/日以上)	36.8km	31.2km	31.2km	達成 (100%)	一般国道375号[日下～引宇根工区] (一)虫道廿日市[吉末工区] (一)金丸府中線[金丸工区]	
	広島県における自動車のCO2排出削減量 (基準年H28)	2千トン/年	8千トン/年	7千トン/年	未達成 (83.3%)	東広島・呉自動車道[阿賀IC立体交差] 一般国道2号[東広島・安芸バイパス]	■拠点間のバス路線が維持された市町数 [R2:23市町→R7:23市町]
	居住誘導区域における持続可能なまちづくりに資する道路整備 (R3～R7の居住誘導区域における道路整備延長59.9km)	—	18.4km	12.1km	未達成 (65.8%)	一般国道375号[御園宇バイパス] (都)上寺家下見線[西条東工区] (主)新松永線[轄工区]	
⑥道路施設の適正な維持管理	1巡点検結果に基づく橋梁の補修実施割合	30%	100%	83%	未達成 (75.7%)	修繕着手数:336橋(R2)→485橋(R7) 修繕完了数:147橋(R2)→405橋(R7)	

計画策定後の状況変化・課題

- 〈背景〉
○気候変動に伴い激甚化・頻発化する自然災害。能登半島地震では、耐震化の効果など、事前防災の重要性を改めて認識。
[施策①]
○改正国土強靱化基本法に基づいた第1次国土強靱化実施中期計画(R8～R12年度)の策定。[施策①]
○人口減少、少子化・高齢化の深刻化による建設業や運送業などの担い手不足。物流の2024年問題。[施策③、⑥]
○半導体等17の戦略分野で大胆な投資促進策とインフラ整備を一体的に講ずることで産業クラスターを戦略的に形成。[施策③]
○気候変動対策としてのCO2削減の必要性の高まり。[施策⑤]
○大規模な道路陥没が発生するなど、高度経済成長期に整備されたインフラの老朽化が加速度的に進行。[施策⑥]

施策	道路に関する課題やニーズ等
①	・広域的な災害発生時における救助活動や緊急輸送、さらに災害による社会経済活動への影響を最小限に抑えるため、緊急輸送道路の更なる機能強化やこれを補完する道路ネットワークの確保が急務となっている。
②	・県内の子どもの交通事故は、「通学路交通安全プログラム」に基づく対策などにより減少してきたものの、近年は毎年190件程度で推移している。また、中高生の自転車通学中の事故や高齢者や障害者等の路切内での事故が増加しており、歩道設置等による交通安全対策の推進が必要である。
③	・主要な物流・人流ルートにおいては、依然として渋滞が残存し、社会経済活動において多大な影響を及ぼしている。さらに、物流の2024年問題の解決に向けて、一層の物流効率化が求められている。 ・半導体産業等の大規模投資に併せて、道路整備を推進する必要がある。
④	・G7広島サミットを契機に世界から関心が高まったことなどにより、外国人観光客数は令和7年には約512万人まで増加している。滞在時間や訪問地を増やし、観光消費額の増加につなげるためには、外国人を含めた全ての観光客がストレスなく快適に観光を満喫できるよう、移動時間の短縮など受入環境の整備が必要である。
⑤	・ビジョン策定時(R2)の推計を上回るスピードで中山間地域の人口減少や高齢化が進展しており、日常生活に必要なサービスや地域コミュニティの維持が一層厳しい状況にあることから、地域拠点間の円滑な移動や、通勤・通学、買い物、通院など日常生活を支える道路の整備が必要である。 ・2050年ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けてあらゆる主体が取組を進める必要があり、CO2国内総排出量の約18%を占める道路分野における脱炭素化の推進が求められている。
⑥	・橋梁定期点検の1巡目点検で判明した健全度Ⅲ485橋の修繕を実施したものの、2巡目点検により新たに健全度Ⅲ149橋が判明した。予防保全型メンテナンスへの早期転換に向け老朽化対策の一層の推進が必要となっている。※健全度Ⅳは、1巡目・2巡目ともに0橋 ・地域の担い手の減少等を背景に、より効果的・効率的な除草等の実施が求められている。

上位計画との関連性

- 「安心・誇り・挑戦ひろしまビジョン」
《令和8年6月改定予定》
(1) 計画期間 令和3年度～令和12年度(10年間)
(2) 目指す姿 県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」により、夢や希望に「挑戦」しています。
- 「社会資本未来プラン」
《令和8年11月改定予定》
(1) 計画期間 令和3年度～令和12年度(10年間)
(2) 目指す姿 県民が様々な場面(平時から非常時に至るまで)において、「安全・安心」や「サービス(利便性・快適性・生産性)」等の向上を実感できる社会

取組の方向 (道路関係分のみを抜粋)	施策体系	取組の方向 (道路関係分のみを抜粋)
【防災減災】 ・ハード・ソフト一体となった対策による事前防災の推進	【施策Ⅰ】 安全・安心な県土づくり ～安全・安心を支える総合的な県土の強靱化～	・災害時に機能する道路ネットワークの機能強化 ・切迫する巨大地震に対する耐震化の推進 ・安全で快適な道路空間の形成
【治安・暮らしの安全】 ・交通事故抑止に向けた総合対策	【施策Ⅱ】 県の強みを生かした県土づくり ～交流・連携を支えるネットワークの充実・強化～	・生産性の向上など企業活動を支える物流基盤の充実 ・強い経済の基盤となるグローバルゲートウェイ機能の強化 ・主要都市間の連携を強化する基盤整備整備 ・観光振興に資する基盤整備 ・空港機能の充実
【交流・連携基盤】 ・世界と繋がる空港機能の強化 ・人・モノの流れを支える道路ネットワークの構築 ・産業活動の基盤となる物流ネットワークの構築	【施策Ⅲ】 魅力ある持続可能な県土づくり ～魅力的で持続可能な社会を支える基盤形成～	・安全・安心に暮らせる集約型都市構造の形成 ・人や産業を惹きつける活力のあるまちづくりの推進 ・中山間地域・島嶼部など地域を支える交通・産業基盤の確保 ・環境負荷の低減に寄与する取組の推進
【観光】 ・誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備	【共通施策】 ～社会資本の適切な維持管理の推進～	・効果的・効率的な維持管理の推進 ・計画的な県土保全対策の推進 ・地域と共働した快適な公共空間の保全
【持続可能なまちづくり】 ・交通基盤及びネットワークの強化		
【中山間地域】 ・中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備		
【環境】 ・ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進		

次期道路整備計画の実施方針

- (1) 計画期間 令和8年度～令和12年度(5年間)
(2) 策定にあたっての考え方
①「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」や「社会資本未来プラン」が目指す姿の実現に向け、下表のとおり現行計画で重点的に取り組む6つの施策を踏襲しつつ、現行計画の取組状況や産業クラスター形成・脱炭素化等の社会経済情勢の変化を踏まえた新たな取組を追加する。また、各施策においてデジタル技術の活用も推進する。
②県事業の実施箇所については、施策の貢献度や事業の実施環境などを考慮するとともに、市町の意見を伺いながら選定する。

施策体系	取組の方向	期待する主な効果	主な事業箇所
①県土強靱化のための道路ネットワークの強化	・災害レジリエンス強化に資する道路ネットワークの確保 ・緊急輸送道路における法面対策や橋梁耐震補強の推進 ・災害直後の交通確保のための無電柱化の推進 ・高速道路等における暫定2車線区間の4車線化など交通機能の確保 ・第1次国土強靱化実施中期計画と連携した道路ネットワークの強化	・災害時の交通寸断リスクの解消 ・円滑な救急活動や物資輸送の確保 ・社会経済活動への影響の最小化	(主) 呉平谷線[上二河工区] (国) 184号[尾道拡幅] 【法面对策】一般国道186号[飯山～栗栖] 【耐震補強】一般国道487号[早瀬大橋]
②安全で快適な道路空間の形成	・通学路や生活道路等における交通安全対策の推進 ・安心で快適な自転車利用環境の整備 ・歩道のバリアフリー化のための無電柱化の推進	・交通事故減少(歩行者・自転車)	(国) 375号[十日市南] (国) 432号[中河内] (国) 486号[父石～目崎]
③物流生産性向上のための道路ネットワークの構築	・生産性の向上など企業活動を支える物流基盤の充実 ・半導体など産業クラスターの形成に資する道路整備の推進 ・グローバルゲートウェイ機能の強化に資する道路整備の推進 ・広島都市圏における高速交通体系の確立 ・効率的な輸送を支援するスマートICやコネクティブーキング等の整備	・渋滞損失時間の削減による生産性向上 ・半導体関連企業等の立地件数の増加や雇用創出	(国) 2号[広島南道路、福山道路] (主) 福山沼隈線[草戸～熊野] (一) 吉川西条線[原工区] コネクティブーキング宮島
④地域内外の交流連携を支える道路ネットワークの構築	・主要都市間の連携を強化する道路整備の推進 ・観光周遊を促進する道路ネットワークの形成	・観光地や交通結節点への移動時間の短縮による観光消費額の増加	(国) 432号[竹原バイパス] (主) 矢野安浦線[熊野バイパス] (一) 廿日市環状線[上平良～佐方]
⑤コンパクトで持続可能なまちづくりに資する道路整備	・中山間地域・島嶼部など地域を支える道路整備の推進 ・渋滞を緩和する道路の改善及び市街地を一体化する鉄道との立体交差化 ・コンパクト＋ネットワーク型のまちづくりを支える道路整備 ・既存道路を有効活用した局部的な線形改良や待避所設置 ・ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた道路分野の脱炭素化の推進	・日常生活における交通の円滑化 ・CO2排出量の削減	(国) 314号[東城バイパス] (一) 坂小屋浦線[平成ヶ浜～森浜] (一) 大田木ノ江線[古本～天満] (都) 広島市東部地区連続立体交差[府中町～海田町] (都) 上寺家下見線[西条東～寺家]
⑥道路施設の適正な維持管理	・加速度的に進行するインフラ老朽化に対応するため、「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」及び「修繕方針」に基づく対策の着実な推進 ・道路施設の日常的な維持管理の適正な実施による安全・安心の確保 ・より効果的・効率的な除草・伐木対策などによる道路環境の保全	・道路施設の長寿命化 ・安全・快適な道路環境の維持	橋梁補修、トンネル補修、舗装補修、除草・伐木、除雪